



地震で壊れた住宅＝トルコ南部アンタキヤで2023年2月7日、三木幸治撮影

## トルコ・シリア地震救援金



赤ちゃんの健康チェックを行うAMDA医師＝  
トルコ南部のギョクチャイ村で2023年2月28日 (AMDA提供)

2023年2月6日、トルコ南部を震源とする巨大地震が発生しました。多数の建物が倒壊し、死者はトルコで5万人以上、シリアで6,700人以上に上っています。多くの住民が家を失い、無人化が進む街もあるといいます。混乱のなか、身元が分からなくなって保護された子どもも多数います。復興には長い時間がかかりそうです。

毎日新聞社と毎日新聞大阪、東京、西部社会事業団は2月10日から救援金を受け付け、大阪社会事業団には4月末までに2,548万円が寄せられました。第1次分として、このうち1,000万円をAMDA (岡山市)▽CODE海外災害援助市民センター (神戸市)▽国境なき医師団日本 (東京都)▽難民を助ける会 (AAR Japan) (同)▽国連UNHCR協会 (同) —の5団体に贈りました。

# 世界子ども救援キャンペーン



ドニプロからモルドバに避難してきたエカテリーナ・ウスティノバさん(中央)、クリスティーナさん(左)、アレクサンダー君(右)の家族

国際児童年(1979年)に毎日新聞社との共催でスタートした「世界子ども救援キャンペーン」は、大阪社会部と同写真部の記者を2022年5月19日から7月15日までの期間、ウクライナの

隣国モルドバに派遣しました。ロシアのウクライナ侵攻を逃れてきた母子らを取材して「離散モルドバ報告」のタイトルの連載記事などを掲載し「世界子ども救援金」を募集しました。

## 世界子ども救援金11団体に贈呈

世界子ども救援金から「取材地助成」「公募助成」「継続助成」の3つの助成を行い、総額1,270万円を贈呈しました。毎日新聞社と毎日新聞大阪・東京・西部社会事業団が海外飢餓・難民救援キャンペーンを始めた1979年以来、これまでに贈呈した救援金は17億718万8,344円になりました。

### ●「取材地助成」5団体に1,150万円を贈呈

- 国連UNHCR協会
- 日本ユニセフ協会
- 難民を助ける会(AAR Japan)
- 国連開発計画(UNDP)
- TMAT

### ●「公募助成」5団体に100万円を贈呈

- アジア子ども基金
- アフガニスタン女性支援プロジェクトEJAAD JAPAN
- Community Life
- STAND ALIVE
- ネパール・ヨードを支える会

### ●「継続助成」1団体に20万円を贈呈

- 日本国際ボランティアセンター(JVC)



## 毎日希望奨学金

絵と題字・西原理恵子さん

### 「毎日希望奨学金」4,464万円を給付

東日本大震災で保護者を亡くした震災遺児の学業を支援する「毎日希望奨学金」(毎日新聞大阪・東京・西部社会事業団、毎日新聞社で創設)は、2022年3月16日付朝刊で「奨学生募集」の社告を掲載しました。5月16日に奨学生選考委員会が開かれ49人に新規の給付が決定しました。継続者と合わせた奨学生は186人となり合計4,464万円を支給しました。11年度からの総支給額は5億7,708万円となりました。

### 配食サービス車贈呈事業 「京丹波町社会福祉協議会」に贈呈

京都府京丹波町の社会福祉法人「京丹波町社会福祉協議会」に2022年11月30日、配食サービス車1台を寄贈しました。配食サービスを行う団体への車両贈呈事業は99年から始まり、今回で36台目となりました＝写真。



### 公募助成金16団体に贈呈

国内外で福祉活動に取り組む団体や先駆的  
事業展開する団体などから一般公募で申請を受け付け、2023年1月31日に有識者による選考委員会を開き、次の16団体に総額290万円を贈呈しました。

#### 〈公募福祉助成金〉

愛知オルタナティブ協議会(名古屋市)▽ガリレオクラブインターナショナル(神戸市)▽サードプレイス(和歌山市)▽日本ダウン症協会富山支部(つなGO)(富山市)▽みみっとの会(岡

山県笠岡市)▽ゆらいく大阪(大阪府熊取町)

#### 〈高齢者福祉特別枠〉

福祉サービスよってんか(大阪府箕面市)▽民謡・三味線 桜会(兵庫県姫路市)▽ラボラトリー・ワーク・グループ大阪(大阪市)

#### 〈シンシア基金助成〉

人・モノ・支援センター(奈良県桜井市)▽兵庫介助犬協会(兵庫県西宮市)

#### 〈世界子ども救援金助成〉

※詳細は2面下段をご参照ください



### 「小児がん征圧募金」 13団体に贈呈

毎日新聞の「生きる 小児がん征圧募金」に寄せられた「小児がん征圧募金」の贈呈式が2023年3月14日、毎日新聞大阪本社で開かれました。

同募金は毎年、患者や家族の支援、研究に取り組む団体などに配分しています。22年度は大阪、京都、兵庫、愛知、三重の13団体に各65万円、総額845万円が贈られ、式には9団体の代表者が出席しました＝写真。これまでの贈呈総額は9,200万円となりました(毎日新聞大阪・東京・西部社会事業団の合計では4億1,155万円)。



### 宝塚少女歌劇団と 大毎慈善団

大毎慈善団(現在の大阪社会事業団)の財源確保に貢献したのは宝塚少女歌劇団(現在の宝塚歌劇団)でした。1914年から10年間にわたり、慈善団主催の「慈善少女歌劇会」を大阪などで開催し、大評判となりました。宝塚少女歌劇団にとっても社会的に認知され発展する契機となりました。

# 毎日新聞大阪社会事業団112年間の歩み（主なもの）

1911年(明治44年)	8月4日 10月26日	(財)大阪毎日新聞慈善団設立 最初の事業として無料巡回診療開始	恩賜財団済生会設立
1912年(明治45年、大正元年)	1月16日	大阪難波新地の大火に救護班派遣(最初の災害救援活動)	明治天皇逝去。大正と改元
1921年(大正10年)	8月24日	病院船「毎日丸」による診療開始	
1922年(大正11年)	11月11日	大阪毎日新聞慈善団東京支部を設立。東日巡回病院開始。1931年まで続く	
1923年(大正12年)	9月5日	関東大震災で上野公園に診療所	関東大震災
1926年(大正15年、昭和元年)	12月	歳末たすけあい運動の基になる「大毎歳末小額生業資金の貸付け事業」開始	大正天皇逝去。昭和と改元
1936年(昭和11年)	11月20日	「歳末義金運動」開始。名士寄贈書画工芸作品展(現在の「チャリティー名士寄贈書画工芸作品入札・即売会」)スタート	2・26事件
1946年(昭和21年)	5月27日	(財)「毎日新聞大阪社会事業団」と改称	日本国憲法公布
1948年(昭和23年)	8月29日	ヘレン・ケラー女史を招き各地で講演会を開催	里親制度開始
1952年(昭和27年)	8月	北九州市に西部支部設立	
1955年(昭和30年)	3月	名古屋市に中部支部設立	
1960年(昭和35年)	12月16日	日本で初めてのテレビを使ったせり市「歳末たすけあい市」(チャリティーオークション)をスタート	カラーテレビ本放送開始
1971年(昭和46年)	4月	設立60周年を記念して「毎日社会福祉顕彰」を創設	児童手当法公布
1979年(昭和54年)	7月	海外難民救援キャンペーンを開始(2001年から世界子ども救援キャンペーンに)	国際児童年
1987年(昭和62年)	10月1日	視覚障害者自立支援のための「専門図書点訳・音訳講習会」開始	
1995年(平成7年)	2月4日	「希望奨学金制度」など阪神大震災被災地の子ども救援事業開始	阪神大震災
1998年(平成10年)	9月4日	介助犬支援のための「シンシア基金」(後の身体障害者補助犬法へ)設立	NPO法成立
1999年(平成11年)	7月30日	配食サービス車贈呈事業開始。1台目を八尾隣保館「成法苑」に贈呈	
2010年(平成22年)	9月1日 11月1日	財団法人から公益財団法人毎日新聞大阪社会事業団に移行。中部支部を廃止 公募助成制度開始	
2011年(平成23年)	4月～5月 8月4日	東日本大震災「被災地に子どもの本を贈る運動」「毎日希望奨学金」募金開始 創立100周年	東日本大震災
2020年(令和2年)	6月	コロナ対策医療支援金を新設	



関東大震災で大阪毎日新聞慈善団は救護班を被災地に派遣した＝1923年9月6日撮影

## トリア 「学天則」開発者も

1934年から本団幹事(後に常務理事)を務めた西村真琴は異色の人材です。米コロンビア大で学び、北海道大で教べんをとった理学博士。日本初のロボット「学天則」の開発者としても知られています。学天則は映画「帝都物語」に登場し、西村を演じたのは水戸黄門役で知られる西村晃。西村真琴の次男です。

### ご寄付の方法

#### ①郵便振替

- 郵便振替口座番号 00970-9-12891
- 加入者名(送り先)  
公益財団法人 毎日新聞大阪社会事業団

#### ②ゆうちょ銀行

- 店名: 0九九店(ゼロキウキウ店)
- 預金種目: 当座
- 口座番号 0012891
- ザイ) マイニチシンブンオオサカシャカイジギョウダン

#### お問い合わせ先

毎日新聞大阪社会事業団 TEL 06-6346-1180

毎日新聞大阪社会事業団へのご寄付は、所得税および法人税の優遇措置が受けられます。また、ご遺産、遺贈された財産についても相続税はかかりません。

### 編集後記 56

- ◆1995年1月17日、毎日新聞記者だった私は、地震発生を受けて神戸に入りました。夜空を染めた火災の紅蓮は、今も記憶に鮮明です。
- ◆98年から毎日新聞は「むすぶ つなぐ」をキーワードに阪神大震災の報道を重ねました。震災の教訓を次世代に伝える決意を示す言葉として、その後も被災地で広く使われました。
- ◆トルコ・シリア地震では、多くの方々からご寄付をいただいています。阪神の被災者と思われる方からのものもあります。
- ◆28年前に被災地を覆った悲しみと、そのはざままで芽吹いた優しさ、強さ。いろいろな思いをむすびつないで現在がある。皆さんからのご寄付にあらためてそう感じます。(森)